



CONTENTS

- 活動報告・各種会議議事録
- 第43回大会報告
- 会員動静
- 学会関連カレンダー
- 学会主催会議等の詳細
- 残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ
改訂4版2018出版のご案内
- 農薬科学研究奨励金制度のご案内
- 講師派遣のご案内
- 日本農薬学会第44回大会の御案内
- ランチョンセミナー「技術士セミナー」開催
のお知らせ
- 会費の自動引き落とし登録をされている会員の
皆様へ

平成30年度 第1回常任評議員会議事録

日時：平成30年8月4日(土) 13:00～17:05

場所：日本植物防疫協会 地下会議室

出席者：出席者 15名 (含第44回大会組織委員会事務局長)，
欠席者 3名

議事：

I. 平成29年度第7回常任評議員会議事録の確認

II. 経過報告および議案

1. 財務関係

- ・平成30年度収支決算(1月1日～7月15日)について報告があった。
- ・外部監査について報告があった。

2. 編集委員会

- ・平成30年7月28日までの投稿審査状況が報告された。
- ・PubMedへの掲載について報告があった。
- ・論文賞候補論文の選考について報告があった。

3. 学術・技術支援委員会

- ・学術・技術支援委員会活動について報告があった。
- ・農薬科学研究奨励金報告について報告があった。
- ・農薬科学研究奨励金審査および交付日程について報告があった。
- ・要旨集データベース化のための合本作製費について報告があった。
- ・講演要旨集データベースの更新手順について報告があった。

4. 役員・評議員選挙について

- ・選挙日程について確認した。

5. 学会賞受賞者選考委員会

- ・学会賞関係、農学賞の推薦について報告があった。
- ・第17回日本農学進歩賞候補者の推薦について報告があった。

6. 技術士育成推進委員会

- ・大会における「技術士試験対策セミナー」の開催について決定した。

7. 昆虫科学連合、植物保護科学連合

- ・シンポジウムの開催について報告があった。

8. 国際学会の渡航費補助について

- ・1件の渡航費補助について承認した。

9. 国際学会の渡航費補助について

- ・1件の申請について、補助を決定した。

10. 研究会の後援・協賛について

- ・1件の協賛依頼について承認した。

11. 第44回大会関係

- ・大会準備の進捗状況について報告があった。
- ・常任評議員会、編集委員会、評議員会、懇親会の開催について報告があった。
- ・公開シンポジウムの開催について報告があった。
- ・総会、授賞式、受賞者講演、特別講演、懇親会について報告があった。
- ・シンポジウム、ランチョンセミナーについて報告があった。
- ・一般講演、講演要旨、大会参加・懇親会締切について報告があった。

12. 入退会の報告

- ・入退会について報告があった。

13. その他

- ・学生優秀発表賞の総括について報告があった。

平成30年度学術小集会委員長との懇談会議事録

日 時：平成30年9月8日(土) 15:30～17:00

場 所：日本植物防疫協会 地下会議室

出席者：学術小集会委員長7名，常任評議員会メンバー13名（欠席4名）

議 事：

1. 小集会活動報告

- ・平成29年度の活動報告があった。

2. 今後の活動方針

- ・平成30年度の活動計画（一部開催済み）が報告された。

3. 小集会から常任評議員会への連絡・要望など

- ・小集会委員の任期途中での交代方法について確認した。
- ・小集会に参加する非学会員の勧誘について議論した。
- ・小集会事務の外注について提案があった。

4. 常任評議員会から小集会への連絡・要望など

- ・小集会開催後，シンポジアとして学会誌への寄稿を依頼した。
- ・農業科学研究奨励金一次審査員選出を依頼した。
- ・講演要旨のアーカイブ化のために，講演要旨集の提出を依頼した。
- ・小集会開催日程が重ならないよう事前調整を依頼した。
- ・「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ改訂4版2018」の販促を依頼した。

第202回常任編集委員会議事録

日 時：平成30年7月28日(土) 15:00～16:45

場 所：京都大学農学部応用生命科学専攻第1セミナー室

出席者：11名

議 事：

1. H30年の投稿状況：JPSへ50編の投稿があった。昨年同期（56編）に比べ少し減少した。掲載料を2018年1月1日からの掲載料改訂（30,000円）の影響は不明である。Special Issue企画後，邦人からの投稿数が増加した。

2. JPS Vol. 43, No. 3を植物ホルモン関係Special IssueとしてWeb版の発行を予定である。冊子体はNo. 4との合冊で11月20日に発行しEditorial, Preface, Review 2編，Original 7編，Note 1編を予定。

3. 日本農薬学会誌Vol. 43, No. 2を発行した。新企画ショートレビューの連載を開始した。受賞論文の和文抄録5編，ミニレビュー10編，読み物シリーズ，各種小委員会のシンポジア，第44回大会プログラムを掲載。会則，投稿規定，投稿細則なども掲載した。

4. 受賞論文は，JPS Vol. 43, No. 4に，和文抄録は日本農薬学会誌Vol. 44, No. 1に掲載する予定である。

5. JPSのインパクトファクターが初めて1.0を越えた。

6. PubMed誌掲載への現状報告をおこなった。

7. 論文賞候補論文を決定した。編集委員36名から37件の推薦の中から，委員長を除く9名で投票を行い候補論文を決定した。尚，編集委員長が連名である論文の投稿方法，および論文賞候補になった場合の対処について議論した。

8. 題目審査を実施後，論文採択の最終決定とする。JPSのAbstractの日本語版は廃止することにした。

9. 読み物（各地の生産現場から）として，Koli氏のReviewの日本語抄録を掲載することにした。

10. ショートレビュー（農薬科学とその周辺—最近の話題—）の執筆を，編集委員を通じてお願いした。

平成30年度第2回

日本農薬学会賞受賞者選考委員会議事録

日 時：平成30年9月22日(土) 13:00～15:15

場 所：植物防疫会館地下会議室

出席者：14名

議 事

1. 選考委員の2/3以上が出席していることから，選考委員会は成立していることを確認した。

2. 推薦のあった奨励賞，業績賞（研究），業績賞（技術）の各候補について，選考に関する内規に基づいて厳正に選考を行い，奨励賞2件，業績賞（研究）2件，業績賞（技術）2件の授賞候補を決定した。

3. 論文賞については，編集委員会より推薦のあった論文を授賞候補とすることを決定した。

4. 今後，上記授賞候補に対して，評議員による授賞可否投票の手続きに入る。

5. その他

日本農薬学会第43回大会報告

日本農薬学会第43回大会は、去る平成30年5月25日(金)～27日(日)の3日間、秋田県秋田市の秋田ビューホテルおよび秋田県立大学秋田キャンパスにおいて開催されました。東北地区では第25回大会(仙台)以来、2回目の開催となりました。正会員、名誉会員、終身会員、維持会員、関連学会の方々(316名)、学生会員(34名)や非会員(97名)の方々の参加があり、参加者総数は447名を数えました。

初日は、秋田ビューホテルにおいて、総会に引き続き、学会賞受賞式、奨励賞(2題)、業績賞(研究, 1題)、業績賞(技術, 1題)の受賞講演、さらに、特別講演(3題)が行われました。2日目、3日目は秋田県立大学秋田キャンパスに会場を移し、一般講演(100題)、シンポジウム(2テーマ)、ランチョンセミナー(6題)および展示会(5社)が行われました。いずれの会場も大勢の参加者による活発な討論がなされました。初日から最終日まで各会場が多く参加者で盛況であったことは大変嬉しいことでした。今大会では、新しい試みとして、学生会員の優秀な発表を表彰する学生優秀発表賞が設けられ、3日目のシンポジウム終了後に4名の学生会員が表彰されました。また、設置から3年目を迎えた託児室も3日間とも利用され、お子様をお持ちの会員の方々に安心して大会に参加していただけたと思われまます。

皆様のご協力により、第43回大会(秋田)を無事に終わることができました。参加者各位、特別講演やシンポジウムの演者の方々、ならびに広告等でご支援を賜りました企業各社、秋田県立大学、秋田観光コンベンション協会に厚く御礼申し上げます。最後に、大会運営を支えていただいた組織委員各位、学生諸君に心から御礼申し上げます。

日本農薬学会第43回大会組織委員会委員長
田母神 繁(秋田県立大学)

学生優秀発表賞(○印は受賞した学生)

「モモシクイガに対する炭酸カルシウム水和剤の産卵阻害活性」

○風間春奈¹、高梨琢磨²、所 雅彦²、石栗陽一³、森 直樹¹、吉永直子¹(¹京大院農、²森林総研、³青森産技セリんご研)

「青枯病菌クオラムセンシング機構を阻害するアンタゴニストの創製」

○坂田 恵、吉原彩華、甲斐建次(阪府大院・生命環境)

「全ゲノム手法を用いた抗真菌性化合物Tolnifanideの作用点の特定」

○重吉沙衣¹、田中千尋²、宮川 恒²、入江俊一¹、鈴木一実¹、泉津弘佑¹(¹滋賀県大院・環、²京大院・農)

「北アフリカ棲息種サソリ *Buthacus leptochelys* の毒液の成分

分析および殺虫性ペプチドの探索」

○義本裕介¹、Mohammed Abdel-Wahab²、Moustafa Sarhan²、宮下正弘¹、中川好秋¹、宮川 恒¹(¹京都大学大学院農学研究科、²Ai=Azhar 大学)



写真1. 平成30年度学会賞受賞者(中央は三芳会長)



写真2. 学生優秀発表賞の授賞式(左上から時計回りに京大・風間氏、大阪府大・坂田氏、滋賀県大・重吉氏、京大・義本氏)

会 員 動 静

(平成30年5月16日～平成30年8月31日)

入 会

正会員

橋本 勝	河岸 洋和	大西 利幸	村上 和仁
小川 熟人	土橋ひかり	梅津 一登	海老原耕一
中島 優子	高井 綾子	手島 輝郎	

学生会員

佐野 拓真 川上 翔大 濱田 祐史

海外会員

LORSBACH, Beth

(受付順)

退会

名誉会員

J. E. Casida

終身会員

太田 舜三

正会員

長岡ひかる 胡 文倩

学生会員

庄司有璃子

維持会員

協和発酵バイオ（株）

学会関連カレンダー

太字は日本農薬学会が主催，共催，協賛，後援する会議等

2018年

11月

23日(金) 第16回農薬バイオサイエンス研究会シンポジウム

主 催：日本農薬学会，農薬バイオサイエンス研究会

会 場：京都大学北部構内 旧演習林事務室 ラウンジ
[〒606-8502 京都市左京区北白川追分町]

U R L : <http://pssj2.jp/committee/bioscience.html>

27日(火) 第26回農薬レギュラトリーサイエンス研究会
「農薬取締法の改正を受けて」

主 催：日本農薬学会，農薬レギュラトリーサイエンス研究会

会 場：北とぴあ [〒114-8503 東京都北区王子1丁目11-1]

U R L : <http://pssj2.jp/committee/regulatory.html>

28日(水)～29日(木) 残留農薬分析セミナー 2018 (関西)

主 催：日本農薬学会

会 場：奈良県農業研究開発センター [〒633-0046 奈良県
桜井市池之内130-1]

U R L : http://pssj2.jp/overview/semina/bunseki_18.html

12月

1日(土) 平成30年度日本学術会議公開シンポジウム 「植
物保護科学のSDGsへの貢献」

主 催：日本学術会議農学委員会植物保護科学分科会，植物
保護科学連合

会 場：東京大学農学部1号館 8番教室 [〒113-8567 東
京都文京区弥生1-1-1]

U R L : <http://www.plantprotection.sakura.ne.jp/>

5日(水)～6日(木) 第46回構造活性相関シンポジウム

主 催：日本薬学会構造活性相関部会

会 場：大阪大学吹田キャンパス銀杏会館 [〒565-0871 大

阪府吹田市山田丘2-2]

U R L : <http://www.qsarj.org/46sympo/>

2019年

3月

11日(月)～13日(水) 日本農薬学会第44回大会

主 催：日本農薬学会

会 場：名城大学

U R L : <http://pssj2.jp/>

18日(月)～20日(水) 平成31年度日本植物病理学会

主 催：日本植物病理学会

会 場：つくば国際会議場

U R L : <https://www.ppsj.org/>

21日(木) 第29回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム

主 催：日本植物病理学会

会 場：明治大学駿河台キャンパス [〒101-8301 東京都千
代田区神田駿河台1-1]

U R L : <http://www.taiseikin.jp/symposium/>

25日(月)～27日(水) 第63回日本応用動物昆虫学会

主 催：一般社団法人日本応用動物昆虫学会

会 場：つくば国際会議場・筑波大学

U R L : <http://odokon.org/>

学会主催会議などの詳細

第16回

農薬バイオサイエンス研究会シンポジウム

テーマ：農薬研究の最前線とその未来像を描く

主 催：日本農薬学会 農薬バイオサイエンス研究会

日 時：平成30年11月23日(金・祝) 13時30分～

会 場：京都大学 北部構内 旧演習林事務室 ラウンジ

[http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/campus/facili-
ties/kyoshokuin/ensyuurin](http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/campus/facilities/kyoshokuin/ensyuurin)

プログラム

13:30～13:35 開会の挨拶

13:35～14:10 高野 義孝(京都大学大学院農学研究科)

「感染制御型農薬の可能性：エフェクターをメイント
ピックとして」

14:10～14:45 河合 清(クミアイ化学工業株式会社)

「新規除草剤開発を事例とした作用機構研究の農薬開発
における役割(仮)」

14:45～14:55 休憩

- 14:55～15:30 旭 美穂(日産化学工業株式会社)
「新規殺虫剤フルキサメタミド(グレーシア®)に関する研究」
- 15:30～16:05 乾 秀之(神戸大学バイオシグナル総合研究センター)
「植物の農薬取り込みメカニズムを利用した農薬の新規利用法」
- 16:05～16:10 閉会の挨拶
- 16:30～17:30 ミニ茶話会(旧演習林事務室 会議室)
- 18:00～20:00 懇親会

参加費：無料

問合せ先：

〒010-0195 秋田市下新城中野字街道端西 241-438
秋田県立大学生物資源科学部 野下 浩二
TEL: 018-872-1634 Email: noge@akita-pu.ac.jp

第26回 農薬レギュラトリーサイエンス研究会

日 時：平成30年11月27日(火) 9時半受付 10時開始
17時から情報交換会

場 所：〒114-8503 東京都北区王子1丁目11-1 北とびあ
15階 ペガサスホール

参加費：5000円 情報交換会費：5000円

テーマ：農薬取締法の改正を受けて

講演：

- ①「農薬取締法の改正について」：
石岡 知洋(農林水産省 消費・安全局 農産安全管理課 農薬対策室室長)
- ②「農薬登録基準の見直しについて—動植物に対する影響評価—」：
小笠原 毅輝(環境省 環境省水・大気環境局 土壌環境課 農薬環境管理室)
- ③「メーカーサイドからの農薬取締法改正の課題」：
横田 篤(農薬工業会技術部長)
- ④「農薬取締法改正の影響について」(仮)：
宇野 彰一(全国農薬協同組合理事長)
- ⑤「農薬取締法改正による生産現場への影響」(仮)：
徳丸 晋(京都府農林水産技術センター 農林センター主任研究員)
- ⑥「EUにおける農薬再評価の影響」：
Gary Dean(エンヴィーゴ株式会社)
- ⑦「総合討論」

残留農薬分析セミナー 2018開催のお知らせ

日本農薬学会では、平成30年11月28日(水)～29日(木)の日程で初心者向けの残留農薬分析セミナー2018を開催します。2日間の実習付きコース(1日目は講義のみ、2日目に実習)は、すでに募集を締め切っていますが、コース1日目の講義のみの聴講が可能です。残留農薬分析に係る法律や農薬残留分析技術の基礎などについて専門家が解説しますので、是非この機会に、ふるってご参加下さい。

詳細は、下記の学会Websiteをご参照ください。

URL：http://pssj2.jp/overview/semina/bunseki_18.html

開催内容

- ・場所：奈良県農業研究開発センター(〒633-0046 奈良県桜井市池之内130-1)
- ・日時：平成30年11月28日(水) 13時10分～17時20分
- ・定員：50名(先着順、定員になり次第締め切ります)
- ・最終申込締切：11月25日(必着)。開催当日での申込・参加はできません。
- ・受講費：会員6,000円、非会員16,000円、学生4,000円
- ・注意：同講義は11月28日～29日の2日間にわたって開催される実習付き残留分析セミナー2018の1日目の講義部分のみへご参加いただく事になります。当コースには実習はありませんので、ご注意ください。
- ・テキストとして最新刊「残留農薬知っておきたい問答あれこれ 改訂4版2018」(日本農薬学会から出版、参加費に含まれる)を参考にしながら進めます。

申し込み及び問い合わせ先

日本農薬学会ホームページ(http://pssj2.jp/overview/semina/bunseki_18.html)より申込書をダウンロードし、必要事項をご記入のうえ、下記E-mailあるいはFAXにて、農薬学会事務局あてにお申込みください。不明点等につきましても下記にお問合せください。

日本農薬学会 E-mail: nouyaku@pssj2.jp

FAX: 03-5980-0282

「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ改訂4版2018」出版のご案内

日本農薬学会では、精度の高い残留農薬分析を実施する上で特に配慮すべき事項を「Q & A」形式に取りまとめた「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ」を出版しています。2003年に初版を発行以来、好評を博して改訂を重ねてまいりましたが、この度、改訂4版を上梓する運びとなりましたのでお知らせします。改訂4版では、前3版出版以降の農薬登録制度の動向を反映させ、最新の科学的知見を盛り込むよう全文の見直しを行ったうえで、初学者の方にも、より読みやすくなるよう心がけて内容を再整理しました。また、携行性を高めるために軽量化を図りました。前版と同様に残留農薬分析の基本やノウハウを得るための参考書として、さらに、食の安全に関心をお持ちの幅広い方々に対しても、農薬の規制についての理解の一助となるようお役立て頂けると幸いです。定価は3,000円です（送料別）。

購入申込み方法：

メールまたはFAXにて、以下の日本農薬学会事務局に氏名、所属、メールアドレス、電話番号、送付先住所、購入冊数（FAX申込みの場合はFAX番号）等をご連絡下さい。また、メール等の件名には「問答あれこれ購入」と記入して下さい。折り返し請求書（送料を含む）を同封し発送しますので、振込みをお願いします。詳細は、学会ホームページもご参照ください。

日本農薬学会事務局：

〒114-0015 東京都北区中里2丁目28番10号 日本植物防疫協会内

FAX: 03-5980-0282

MAIL: nouyaku@pssj2.jp

学会HP: http://pssj2.jp/overview/book_zanryu.html

農薬科学研究奨励金制度のご案内

日本農薬学会では、農薬科学研究の支援を目的として、特に競争的資金の獲得が難しい研究課題や研究者の方々にも利用して頂けるよう農薬科学研究奨励金（1件上限50万円、総額150万円を予定）の交付を行っています。現在、平成31年度交付分の申請を受け付けていますので、学会ホームページ（<http://pssj2.jp/inside/grant18.html>）をご参照の上、是非ご応募下さい。なお、応募締め切りは、平成30年11月30日（当日消印有効）です。

講師派遣のご案内

日本農薬学会では、一般市民や農業、教育関係の方々に農薬に関する知識や食料生産、食品安全、環境影響などに関する理解を深めていただくことを目的として、専門家を講師として派遣しています。派遣講師が行う講義の内容は、ご要望にできる限り沿うようにしたいと考えておりますので、遠慮なくご相談ください。本活動にご興味がありましたら、学会ホームページ（http://pssj2.jp/overview/semina/haken_16.html）をご参照のうえ、日本農薬学会事務局にご連絡ください。

日本農薬学会第44回大会の御案内

日本農薬学会第44回大会を平成31年3月11日(月)から3月13日(水)までの3日間にわたって名城大学(天白キャンパス)にて開催いたします。本会会員ならびにご関心をお持ちの皆様には、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。一般講演の充実のため、学術小集会などの発表で評価されたご研究についても本大会での発表を歓迎いたします。植物防疫関係2学会(日本植物病理学会、日本応用動物昆虫学会)および日本雑草学会と植物化学調節学会の正会員・学生会員の方も本学会会員扱いとなりますので、お近くの関係学会員の方に参加・発表をお誘いいただければ幸いです。また、非会員の方のご参加も歓迎いたします。多数のご参加をお待ち申し上げております。

大会関係の記事は、下記のように本News Letterと学会誌に掲載いたします。また、詳細を大会ホームページで随時お知らせいたします。

- News Letter 2018年第4号(平成30年11月20日発行): 大会案内, 一般講演申込み要領, 事前割引登録要領
- 日本農薬学会誌44巻1号(平成31年2月20日発行): 大会日程, プログラム, 会場案内

I. 開催場所

総会, 学会賞授賞式, 受賞講演, 特別講演, 懇親会, 受賞祝賀会

『名城大学天白キャンパス, 共通講義棟北: 名城ホール』(<https://www.meijo-u.ac.jp/about/campus/tempaku.html>)
新幹線をご利用の場合, 地下鉄東山線で「伏見」下車(所要約5分), 乗り換え約3分, 地下鉄鶴舞線で「塩釜口」下車(所要約20分), 名城大学天白キャンパスまで徒歩10分。

中部国際空港をご利用の場合, 名鉄で「金山駅」下車(所要約30分), 乗り換え約5分, 地下鉄名城線で「上前津」下車(所要約5分), 乗り換え約5分, 地下鉄鶴舞線で「塩釜口」下車(所要約15分), 名城大学天白キャンパスまで徒歩10分。

小牧空港をご利用の場合, 空港バスで「名古屋駅」下車(所要約20~35分), 乗り換え約5分, 地下鉄東山線で「伏見」下車(所要約5分), 乗り換え約3分, 地下鉄鶴舞線で「塩釜口」下車(所要約20分), 名城大学天白キャンパスまで徒歩10分。

一般講演, シンポジウム, ランチョンセミナー, 展示会

『名城大学天白キャンパス 共通講義棟南』(<https://www.meijo-u.ac.jp/about/campus/tempaku.html>)
ご来場の方法は, 上記総会等に記載の内容をご参照下さい。

II. 会期および日程

平成31年3月11日(月)~3月13日(水)

月・日	午前	昼	午後	会場
3月11日(月)	総会, 授賞式 受賞講演		受賞講演, 特別講演 懇親会・受賞祝賀会	名城大学天白キャンパス
3月12日(火)	一般講演	ランチョンセミナー	一般講演	名城大学天白キャンパス
3月13日(水)	一般講演 シンポジウム	ランチョンセミナー	シンポジウム	名城大学天白キャンパス

常任評議員会, 評議員会および編集委員会は, 3月10日(日)に名城大学天白キャンパスで開催します。詳細については別途ご案内します。

重要な締切日

(平成30年12月1日(土)に申し込みを開始いたします。)

一般講演申込期限 平成31年1月10日(木) 延長はいたしません。

講演要旨原稿提出期限 平成31年1月10日(木) 一般講演申込期限と同日ですのでご注意ください。

事前参加・懇親会登録期限 平成31年2月1日(金)

III. 特別講演およびシンポジウム

1. 特別講演

- (1) 「100グラムスケールでの製造供給を可能にした農業「鍵」天然物合成」
菅 敏幸（静岡県立大学・教授）
- (2) 「植物の香り化合物による生存戦略」
松井 健二（山口大学・教授）

2. シンポジウム

- (1) 「形を見る，形から学ぶ」（農業バイオサイエンス研究会との共催）平成31年3月13日（水）9:00-12:00
オーガナイザー：野下浩二，村野宏達
クライオ電顕について（仮）
産業技術総合研究所創薬分子プロファイリング研究センター 三尾和弘
イメージング質量分析について（仮）
大阪大学大学院工学研究科 新聞秀一
RNAiについて（仮）
自然科学研究機構基礎生物学研究所 新美輝幸
ペプチドホルモンについて（仮）
名古屋大学大学院理学研究科 松林嘉克
- (2) 「東海地方の主要作物とその病害虫防除」平成31年3月13日（水）13:45-16:45
オーガナイザー：天野昭子，大竹敏也，永井雄太郎
「シソのサビダニが引き起こすオオバのモザイク病及びさび症の防除体系」（仮）
愛知県（調整中）
「三重県内のチャノコカクモンハマキにおける薬剤抵抗性の発達状況と防除指導について」（仮）
三重県（調整中）
「野菜における農薬耐性菌問題と防除対策」（仮）
岐阜県（調整中）
「マイナー作物への農薬登録拡大事業」（仮）
（調整中）

IV. ランチョンセミナー

各ランチョンセミナーでは，弁当が定員（70名または50名）まで無料で提供されます。チケットは，各セミナー当日の朝8:30から受付付近で配布します。

3月12日（火）12:00-13:00

技術士セミナー（定員50名）

L1-L3 調整中

3月13日（水）12:30-13:03

L1-L3 調整中

V. 一般講演申込（一般講演申込期限は平成31年1月10日（木））

一般講演要旨提出は，本学会会員（および冒頭で記載した4学会の会員）で平成31年度分会費納入者に限ります。受付は全てWeb上で行い，平成30年12月1日（土）より開始します。一般講演を申し込まれる場合は，1演題ごとに発表代表者が次の1～3を行ってください。

1. 東武トップツアーズ（株）の事前参加登録ページ（<https://conv.toptour.co.jp/shop/evt/pssj44>）にログインし，「IX. 参加登録」の項に従って，事前参加登録を行ってください。事前参加登録をされませんと，一般講演の申込はできません。一般講演を行わない参加者の方も，必ず事前登録を行ってください。
2. 一般講演申込の受付は平成30年12月1日（土）からWeb上で開始いたします。1.の参加登録手続き後に，東武トップツアーズ（株）の事前参加登録ページにログインし，マイページ左側メニューの「各種講演申込」から手続きを行って

ださい。(一般講演申込期限：平成31年1月10日(木))

3. 2.の一般講演申込手続き後に、「VI. 講演要旨原稿の作成について」の項をご参照の上、講演要旨原稿を作成してください。講演要旨原稿は東武トップツアーズ(株)の事前参加登録ページにログインし、「各種講演申込」でアップロードすることによって提出してください。(要旨提出締切：平成31年1月10日(木))詳しくは、「VI. 講演要旨原稿の作成について」の項をご覧ください。

※一般講演申込の入力内容について

一般講演申込においては、(1) 演題名 (2) 発表者氏名(連名の場合は共同発表者全員をご登録ください。また、発表者区分の項目で、発表代表者または共同発表者の別を明らかにしてください) (3) 所属・連絡先・電子メールアドレス (4) 分類(下の分類表I, およびIIから選択, 選択例: 第1希望B-1, 第2希望E-5) (5) 代表者の会員番号をそれぞれご入力ください。期限を過ぎると、これらの内容は変更できません。

(4) の分類は、プログラム編成のために使用します。下記の分類表IとIIを組み合わせた記号で希望分野をご選択ください。

(5) の会員番号は、学会誌が送付された封筒の氏名欄右下に記された6桁の数字です。会員用「お知らせメール」にも記載されています。不明の場合は、日本農薬学会事務局(Tel: 03-5980-0281)にお問合せください。

分類I	分類II
A 分子設計	1 殺虫剤
B 天然物化学	2 殺菌剤
C 合成プロセス, グリーンケミストリー	3 除草剤
D 作用機構, 抵抗性	4 植物生長調節剤
E 生物活性, 検定法	5 防疫薬
F 代謝, 分解, 動態	6 生物農薬
G 製剤, 施用法	7 環境化学物質
H 残留, 分析法	8 その他(簡単な内容をご記入ください)
I 環境科学, 生態影響	
J 毒性	
K 遺伝子科学	
L レギュラトリーサイエンス	
M その他(簡単な内容をご記入ください)	

VI. 講演要旨原稿の作成について

講演要旨原稿は紙媒体をえません。『一般講演要旨原稿テンプレート』に上書きすることにより要旨原稿を作成し、WordファイルおよびそれをPDF化したファイルとして、東武トップツアーズ(株)の事前参加登録ページ(<https://conv.toptour.co.jp/shop/evt/pssj44>)の「一般講演申込」において、ファイルをアップロードすることにより提出していただきます。原稿はそのまま大会事務局でA4版にプリントアウトし、オフセット印刷します。要旨提出期限は平成31年1月10日(木)です。

- 要旨原稿はMicrosoft Word for Windows もしくは Microsoft Word for Mac にて、『一般講演要旨原稿テンプレート』に上書きして作成してください。図表を挿入しても差し支えありません。なお、1演題につき用紙1枚に限ります。要旨原稿作成にあたっては、要旨記入例を参照ください。
- 書式(一般講演要旨原稿テンプレートおよび要旨記入例を参照)
 - A4版用紙を用い、上下25 mm, 左右20 mm を余白とした枠内に記入してください。
 - 演題および氏名(所属)を最上部に書き、左側には25 mm(余白と合わせて45 mm)の空白を設けてください。発表者が連名の場合には、講演者の前に○印を付けてください。
 - 演題・氏名(所属)・要旨本文および脚注を、それぞれ改行してこの順に書いてください。氏名(所属)と要旨本文

の間には、空白行を1行設けてください。

- d. 全行数（演題、氏名、脚注などを含む）は36行程度で書いてください。
 - e. 要旨本文は、目的・方法・結果および考察に分けて、具体的に書いてください。特に、結果および考察については、その内容を把握できるようにしてください。
 - f. フォントは12ポイントで、演題は太字にしたゴシック体（「MSPゴシック」を推奨）を、それ以外は明朝体（「MSP明朝」を推奨）を使用して下さい。数字やアルファベットは原則として半角文字を使ってください。
 - g. 枠内の最下部から30mmまでの領域内に、脚注として英文による演題と氏名（所属）を書き込んでください。
 - h. 英文で記述する場合は、フォントにできる限り「Times New Roman」を用い、上記の様式に準じてください。
3. 要旨原稿ファイルは、WordファイルおよびそれをPDF化したファイルの両方で提出していただきます。PDF化に際しては、図表に充分な解像度があるか、文字化けはないか発表者自身で確認してください。
 4. ファイル名はそれぞれ（氏名の半角英小文字.doc）、（氏名の半角英小文字.pdf）としてください（“名城太郎”の場合は、meijotarou.doc と meijotarou.pdf となります）。
 5. 大会講演要旨集に掲載された各要旨の著作権（複製権、公衆送信権を含む）は、日本農薬学会に帰属しますので、必ず「共著者全員の同意のもと承認します」の承認ボタンにチェックを入れてください。

VII. 一般講演について

講演はすべて、Microsoft PowerPointで作成されたファイルを液晶プロジェクターで投影して行います。講演時にトラブルが起きないように、下記の注意点を参考にしてファイルの作成と受付を行ってください。使用するノートパソコン（OS：Windows 8）には、最新のMicrosoft PowerPoint Viewer（無料ソフト）がインストールされています。演台上のPCは、補助者はつきませんが、原則として演者の方ご自身で操作していただきます。

ファイル作成の注意点

- (1) 発表1題につき1つのファイルを作成し、ファイル名は講演番号_講演者名（半角英数のみ使用）.ppt（あるいは.pptx）としてください。例：A101_meijotarou.ppt
- (2) 講演時間は1題15分（講演12分、討論3分）の予定です。12分の発表時間に適したスライドの枚数にしてください。また、遠距離からも十分見えるよう、文字のサイズやフォントの選択に留意してください。
- (3) スライド中に使用するフォントは、文字化けを防ぐために機種依存文字（①、（株）など）の使用は、極力避けてください。
- (4) 動画等を含む大容量のファイルはトラブルの原因になりますので、極力避けてください。やむを得ない場合は、ファイルを可能な限り圧縮してください。
- (5) 作成されたファイルはWindows版のPowerPointでスムーズにスライドショーができることを確認してください。特にMacintoshをご使用の方は、ファイルをお持ちいただく前に、Windows版のPowerPointで動作確認を各自お願いいたします。特にフォントずれや文字化け、オブジェクトの非認識等にご注意ください。

データ受付の流れ

※発表ファイルの受付は、原則として3月11日（月）（一般講演前日）に済ませてください。発表者が受付できない場合は、共同発表者の方が代わりに行ってください。発表直前の受付はご遠慮ください。

- (1) 発表用ファイルはUSBメモリに保存してお持ちください。発表ファイルおよびUSBメモリのウイルスチェックを、必ず事前にお持ちの最新ウイルス対策ソフトで済ませておいてください。
- (2) 総会会場の受付付近に設置した「発表ファイル受付」にて、ウイルスチェックを行なった後、発表ファイルをコピーしていただき、スライド動作に問題がないかどうかを確認してください。
- (3) 万が一のトラブルに備え、発表用ファイルの入ったUSBメモリは、発表時にご持参ください。
- (4) 大会終了後は、講演会場用PCにコピーされた発表ファイルは大会実行委員立会いの下、確実に削除いたします。

VIII. 参加登録（事前参加登録期限は平成31年2月1日（金））

参加登録は、平成30年12月1日（土）から平成31年2月1日（金）までWeb上で開始します。東武トップツアーズ（株）の事前参加登録ページにアクセスしてください。「初めてのの方はこちらから」のボタンをクリックし、ID（メールアドレス）、パ

スワードを登録しログインします。参加者の連絡先入力後、大会参加、懇親会参加、宿泊予約等を行ってください。登録手続き完了後、登録内容をお知らせする電子メール（「ID登録完了のお知らせ」）がお手元に自動配信されます。このメールにより、参加登録手続きの完了と申込内容が確認できます。申込内容を確認後、参加登録ページの「支払」から支払い手続きを行ってください。参加費の支払い方法の詳細については支払い方法登録確認のメールにてお知らせします。

※支払いは銀行振込もしくはクレジットカードのみとなっております。公費・校費による支払いはお受けできません。

1. 事前登録割引：平成31年2月1日(金)までとさせていただきます。これ以降は、すべて当日受付とさせていただきますので、大会会場にてお申込みください。スムーズな当日運営のため、事前登録割引にご協力いただきますよう、よろしくお祈りします。一般講演を行わない参加者の方も、事前登録にご協力ください。

		参加登録費	備考
大会参加費 (講演要旨集1部の代金含む)	正会員	7,000円	2月2日(土)以降は 9,000円
	学生会員	3,000円	2月2日(土)以降は 4,000円
	非会員	10,000円	2月2日(土)以降は12,000円
講演要旨集のみ		3,000円	送料込み(大会終了後発送します)
懇親会費	正会員	6,000円	2月2日(土)以降は 7,000円
	学生会員	2,000円	2月2日(土)以降は 3,000円
	非会員	8,000円	2月2日(土)以降は 9,000円

※植物防疫関係2学会（日本植物病理学会・日本応用動物昆虫学会）および日本雑草学会と植物化学調節学会の正会員・学生会員の方も本学会会員と同じ参加費です。

2. いったん納入された参加登録費・懇親会費は返金いたしません。
3. 大会参加登録費用に相当する領収書（参加登録費・懇親会費）は、大会当日に参加証と一緒にお渡しします。
4. 事前参加登録し、参加登録費をお支払いいただいた方は、事前参加登録ページの大会参加証引換券発行ページから大会参加証引換券を印刷することができます。その引換券を印刷して、宿泊等の必要情報を記入いただき、学会当日、大会受付へ提出ください。参加証を引き換えにお渡しします。

IX. 宿泊について

東武トップツアーズ（株）の事前参加登録ページから、ホテルの宿泊を予約していただくことができますのでご利用ください。

X. 託児室について

お子様をお持ちの会員の方々に安心して年次大会に参加していただくために、乳幼児を含む未就学児童から小学生（6ヶ月～12歳）までのお子様を大会期間中にお預かりする託児室（無料）を設置いたします。ご利用には事前の申込と手続きが必要です。託児室の利用をご希望の方は、下記の大会組織委員会までご相談ください。

日本農薬学会第44回大会組織委員会

住所：〒468-8502 愛知県名古屋市中白区塩釜口1丁目501 名城大学農学部

TEL: 052-838-2437

E-mail: murano@meijo-u.ac.jp

担当：村野 宏達

ランチョンセミナー「技術士セミナー」開催のお知らせ ～公的研究機関における技術士の役割～

日本農薬学会では、大会時に開催する「技術士セミナー」において、技術士（農業部門・植物保護）の取得支援として、試験の概要や対策に関する情報を提供してきました。第44回大会では、技術士資格取得の動機や試験対策とともに、公的研究機関で研究や後進指導、また農業行政と現場をつなぐお仕事の中で、技術士資格がどのように関わるかご紹介し、技術士に対する具体的なイメージづくりにつなげていただければと思います。これから取得を目指す方もすでに取得された方も、また、技術士について知りたい方など多くの方のご参加をお待ちしております。

- 1 日時：平成31年3月12日(火) 12時～12時50分
- 2 場所：名城大学
第44回農薬学会大会 ランチョンセミナー会場
- 3 募集人数：50名（当日朝から先着順でチケットを配布します）
- 4 内容
(1) 講演：「公的研究機関における技術士の役割」
演者：兵庫県農林水産技術総合センター病害虫部部长 神頭武嗣

会費の自動引き落とし登録をされている会員の皆様へ

2019年会費を、2018年12月6日(木)に引き落としいたします。前日までに指定口座へのご入金をよろしくお願いいたします。

※2019年分の自動引き落としの申込は締め切りました。2020年度分より自動引き落としを希望される方は学会事務局までご連絡ください。

日本農薬学会事務局：

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10 日本植物防疫協会内

TEL: 03-5980-0281

E-mail: nouyaku@pssj2.jp

発行所：日本農薬学会

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10

一般社団法人日本植物防疫協会内

TEL: 03(5980)0281 FAX: 03(5980)0282

E-mail: nouyaku@pssj2.jp